

【担当教員名】 今村 徹		対象学年 3	対象学科 言語	
		開講時期 前期	必修・選択 必修	
		単位数 各1計2単位	時間数	各15計30時間
【<概要>】 ヒトの脳は一次的な運動・感覚機能だけではなく、日常生活や社会生活をおくるために必要な記憶、注意、計算、思考、判断、学習などの機能を担っている。これらを認知機能（または高次機能）と総称する。本科目では成人の認知機能障害の診断と評価を学ぶ。現在の臨床現場では、急性期、慢性期を問わず驚くほど多数の患者が、さまざまな認知機能障害を診断・評価されないまま、不十分な治療・看護・介護・療養環境に甘んじている。認知機能障害を診断・評価できる人材のニーズは大きく、言語聴覚士も認知機能障害全般のコンサルテーションを受ける専門職（神経心理士）としての役割を求められるようになるであろう。本科目はそのような臨床現場のニーズに応えるための入門講座である。				
【<学習目標>】 ①代表的な認知機能障害の症候学とその機序を理解する。②患者の認知機能障害を診察して症候群として把握できる。③把握した認知機能障害を適切な検査・テストで描出できる。④患者の認知機能障害に関する情報をまとめ、提示することができる。				
回数	授業計画又は学習の主題			学習方法・学習課題又は備考
	<p>(A) 学習の主題 以下の主題の1)および2)から6)のうちの4項目をとりあげる予定である。 1) 診察→検査→解釈：認知機能障害の評価の流れ 2) 健忘症候群 3) 前頭葉症候群 4) 右半球症候群 5) 痴呆 6) 視覚認知障害の症候群</p> <p>(B) 学習方法 主題となる各項目について以下の形式の授業を組み合わせで行う 1) 教員による講義 2) 学生による課題発表（ゼミ形式） 3) 患者診察と評価（学外施設にて） 4) 症例発表会（診察評価を行った患者について） 2), 3), 4) は学生を6名程度からなる8グループに分けて行う。</p> <p>担当教員：今村 徹</p>			
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	神経心理学入門 脳損傷の理解：神経心理学的アプローチ	山鳥重 鈴木匡子訳	医学書院 MEDSI	1985年、6400円、ISBN：4-260-1170 1993年、5800円、ISBN：4-89592-077
参考書	脳からみた心 高次脳機能障害学	山鳥重 石合純夫	日本放送出版協会 医歯薬出版	1985年、970円、ISBN：4-14-001482 2003年、4000円、ISBN：4-263-2114
その他の資料	適宜配布する			
【評価方法】 課題と症例の発表に合格した学生にレポートを課す。提出されたレポートの評価点を最終の成績評価とする。	【履修上の留意点】 『高次脳機能障害学』『高次脳機能障害学演習』の2科目は一体のものとして運用し、個々の授業がどちらのものかはあえて区別しない。			